



2026年3月期 第3四半期 決算補足説明資料

2026年 1月30日(金)

ウェーブロックホールディングス株式会社
証券コード:7940
(東証スタンダード市場)

- サマリー
- 第3四半期業績概要と通期見通し
- セグメント概況
- 期末配当について

■ 売上高 18,808百万円 (前年同期比△1.5%)

- ・自動車向け販売は北米のEV補助金終了などの影響により減少
- ・農業向け遮熱・遮光製品の販売は好調に推移

■ 営業利益 563百万円 (前年同期比+59.1%)

- ・自動車向け販売は売上高減少により苦戦
- ・遮熱・遮光製品の販売増加が利益に貢献

■ 四半期純利益 308百万円 (前年同期比+13.3%)

- ・RP東プラの持分法利益を計上
- ・公開買付関連費用を計上

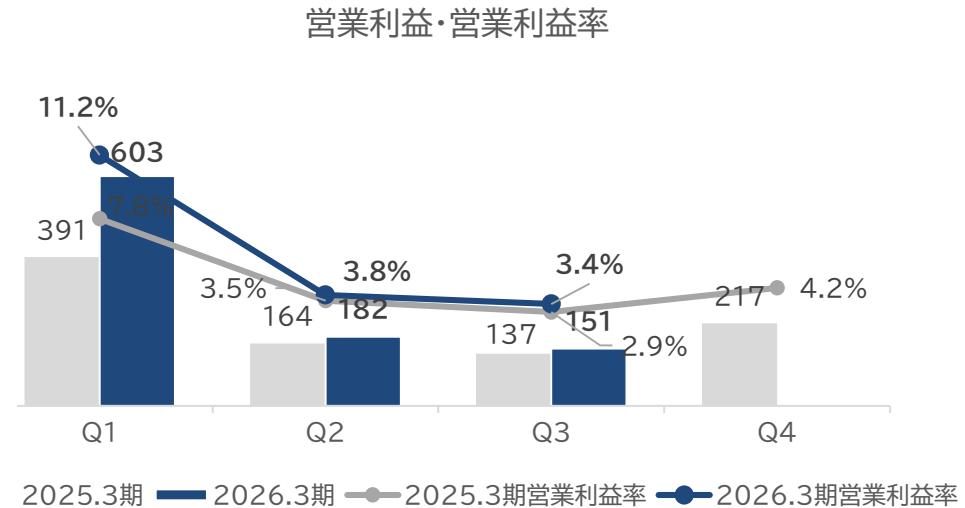
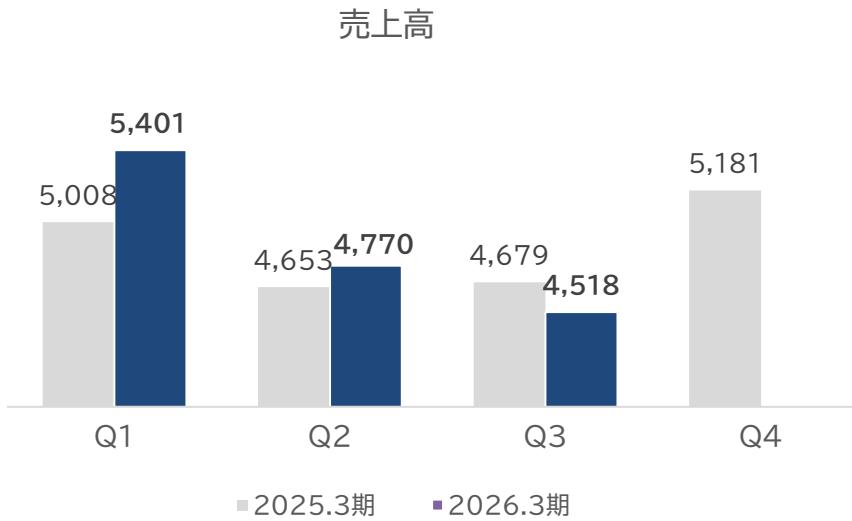
第3四半期業績概要と通期見通し

- 売上高・営業利益：営業利益は一定程度確保できたものの、売上高は想定を下回った
 - ・ マテリアルソリューション事業は、農園芸品販売が計画を大きく上回り貢献。一方、食品包材および防虫網が低調。アドバンストテクノロジー事業の自動車向け販売は、北米・中国市場が引き続き低調。加えてテレビモニター向け販売低迷も売上高に影響。海外子会社の在庫消化進展による未実現利益の減少が利益に寄与
 - ・ 退職給付債務の再計算による影響は+219百万円
- 経常利益以下：想定を上回り推移
 - ・ 持分法利益の積み上げや、TOB不成立により公開買付関連費用が見込比で減少
- 通期見通し：売上高・営業利益ともに低調に推移する見通し
 - ・ 第4四半期はホームセンター向け販売が需要期に入るものの、防虫網販売の伸び悩みにより厳しい状況を見込む。自動車向け販売も北米・中国が回復鈍く厳しい事業環境が続く見込み

(単位:百万円)

	2025年3月期 第3四半期 (実績)	2026年3月期 第3四半期 (実績)	増減率	通期予想	進捗率
売 上 高	19,099	18,808	△1.5%	26,000	72.3%
マテリアル	14,341	14,690	+2.4%	20,000	73.5%
アドバンスト	4,803	4,151	△13.6%	6,000	69.2%
営 業 利 益	354	563	+59.1%	550	102.5%
マテリアル	693	937	+35.2%	1,100	85.2%
アドバンスト	129	92	△28.5%	80	115.4%
そ の 他	△ 467	△ 465	-	△630	-
経 常 利 益	434	682	+57.1%	550	124.1%
四 半 期 純 利 益	272	308	+13.3%	200	154.1%

単位:百万円



リビングソリューション:

- ホームセンターで販売する家庭菜園向け園芸用品は堅調に推移する一方、防虫網は猛暑の影響などにより需要が減少。また、住宅着工件数の低下を受け、サッシメーカー向け防虫網も低調に推移。第4四半期はホームセンター向け販売が需要期に入るものの、防虫網販売の低調により苦戦を見込む。今期より連結したミネ社との連携は順調に進展

ビルディングソリューション:

- 仮設資材用メッシュシート、間仕切用シート等の販売が好調に推移。加えて、原材料価格上昇分の売価転嫁の浸透が製造設備の更新などに伴う操業低下をカバーし、前年同期比では増益を確保

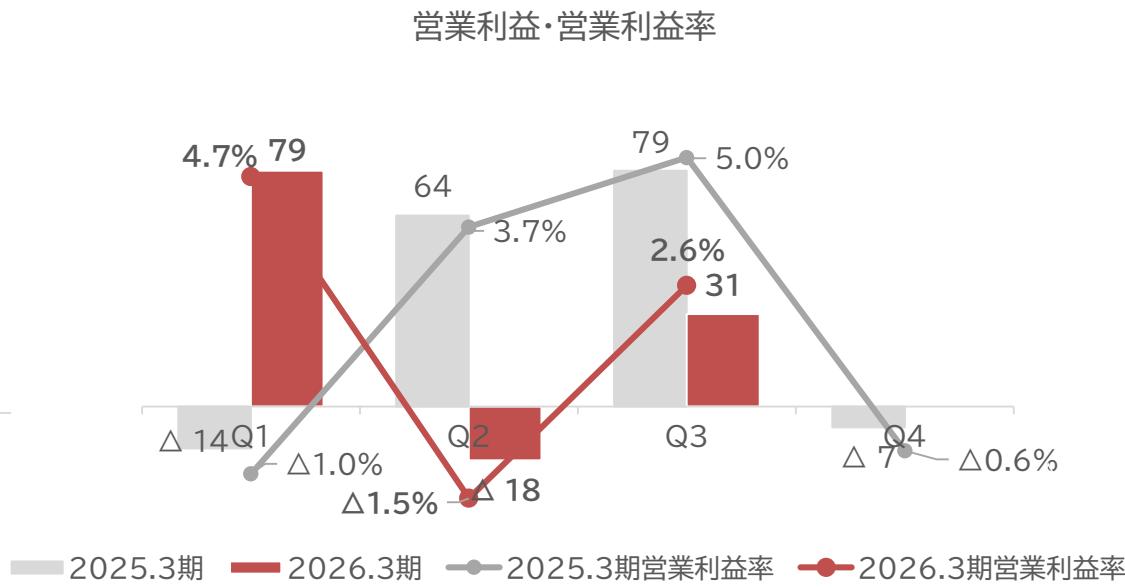
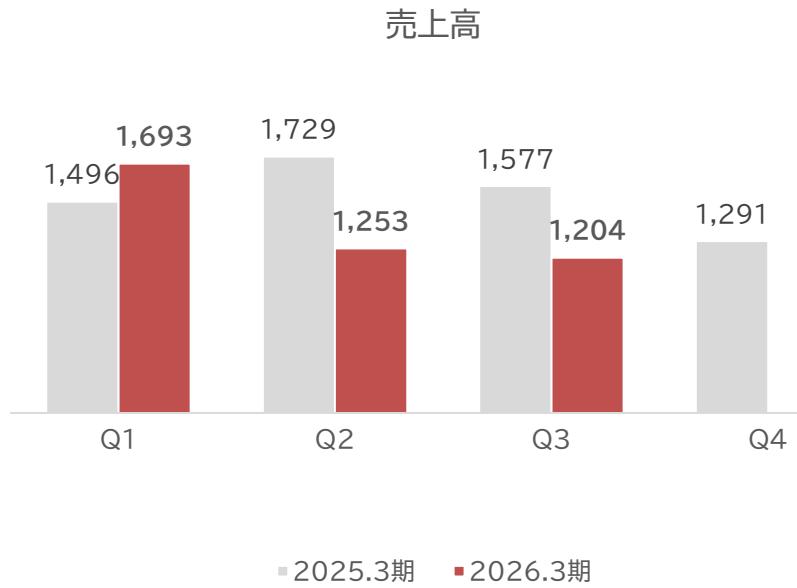
パッケージングソリューション:

- コンビニ向け弁当容器は物価高を背景に需要が低下。販売数量の減少は生産効率にも影響し、売上高および営業利益は前年同期比減

アグリソリューション:

- 短期梅雨や全国的な猛暑を背景に、「清冷」を中心とした遮熱網など農業向け遮熱・遮光用途品の販売が前年を上回るペースで拡大。また、海外での抹茶人気を背景に、茶葉生産者向け遮光網需要も高水準で推移。売上高、利益ともに大きく貢献

単位:百万円



デコレーション&ディスプレー:

- 北米では、関税やEV補助金停止を見越した駆け込み需要の反動により、第2四半期以降の出荷が大幅に減少。中国でも現地EVメーカーの在庫調整の影響を受け低調に推移。今期より本格稼働したインド拠点における現地自動車メーカー向けエンブレム販売の好調や、新規車載エンブレム案件の量産開始などがあったものの、北米・中国市場の減少を補うには至らず
- 利益面では、製造工程の改善や、海外子会社の在庫消化進展による未実現利益の減少が寄与したものの、販売数量の減少により生産効率が悪化し苦戦
- 米国関税の影響をふまえ、グローバル生産体制の最適化を進展中
- 各国の政策転換などにより短期的な影響を受けるものの、中長期的な成長トレンドは不变。販路拡大と品質管理体制の強化を通じて次の成長フェーズへの基盤づくりを加速

その他:

- テレビモニター用導光板・拡散板の販売はテレビ需要の低下に伴い大幅減少。仕入販売のため利益への影響は些少

当社は、2025年12月17日付「WHD株式会社による当社株式に対する公開買付けの結果に関するお知らせ」に記載のとおり、当社株式の非公開化の可能性も含め、当社の企業価値を最大化するための選択肢を引き続き広く模索しております。

このため、2025年10月31日付「2026年3月期の中間配当及び期末配当予想の修正(無配)に関するお知らせ」において公表いたしました期末配当予想について、変更はありません。

本資料における見通しは、本資料作成時点で入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、今後の事業環境の変化により実際の業績が異なる可能性があります。

本資料に記載されている内容・写真・図表等の無断転載を禁止します。